

< 目次 >

- 1 【 学力向上 】 ノートの効用〔前編〕
 - 2 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 3 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

★教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」を聴くことができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/HANDINHAND.html>

★平成24年度教育振興運動集約県大会開催要項はこちら

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24syuuyakutaiikai.pdf>

1 【 学力向上 】 ノートの効用〔前編〕

お正月が終わり、冬休みも残すところ10日ほどとなりました。子どもたちの宿題もこれから追い込みに入ることでしょう。夏休み前には「教科書は最高の学習教材」という内容を書きました（教振メルマガ第72、73号参照）が、今回はノートの効用についてです。

小説家を目指す人の練習のひとつに“好きな作家の文章を書き写す”という方法があるそうです。見て、そのままを書き写すことにより、文体やリズムなど文章表現力のセンスを養うのだそうです。

同様に、教科書の文章をそのままノートに書き写すと、文章表現力が身につくとともに改行の仕方や句読点の打ち方、カギ括弧の使い方といった文章の書き方も身につきます。また、“正確に早く書き写す”ことで黒板（板書）の文字を書きとるトレーニングにもなります。

この学習は機械的な作業ですので、自分で考えたり、解いたりすることはありません。それでは勉強にはならないとおっしゃる方もいるかもしれませんが、この『視写』という学習（トレーニング）は正解や不正解がなく、子どもたちにとってはハードルが低い取り組みやすい学習です。

その書き写したノートを見た皆さん（保護者・先生）は、「いっぱいやったね」「すごいね」「がんばったね」と子どもの取組をたくさん褒めてあげればよいのです。また、書いてある内容の良いところ（文字が丁寧、イラストが上手、わかりやすく書いているなど）だけを見て、褒めてあげてください。注意はいっさいせず、「書くことが好き、楽しい」と思う手助けをしてあげてください。

努力したことを褒められることにより、努力する子になります。ノートに書くことを嫌がらない子になります。丁寧な文字と褒められたら、その後も丁寧に書くことを意識し、わかりやすく書いたと褒められた子は、その後もわかりやすく書こうとします。

家庭での学習では「教えよう、直そう」と力まないで、がんばりといいいところを思い切り褒めてあげましょう。それだけで、進んで家庭学習をするようにな

ります。その媒介となるのがノートであり、「勉強＝楽しい」と思わせる大事なきっかけがノートにあります。

<お詫び>

みんなで教振！メールマガジン第83号に掲載しました『全県共通課題』の取組実践区の割合に誤りがありました。お詫びして、下記の通り訂正いたします。

- 「家庭学習の充実」に取り組む実践区；（誤）70.6% → （正）71.2%
 - 「読書活動の推進」に取り組む実践区；（誤）84.9% → （正）84.0%
-

2【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) 新年、明けましておめでとうございます。

(振ちゃん) おめでとうございます。

(教ちゃん) 今年も、ふたりそろってよろしくお願いします。

(振ちゃん) お願いします。

(教ちゃん) 今年は集約県大会があり、これまでの取組を振り返る節目の年となります。集約県大会には、県内各市町村から460人の皆さんが集まってくださいます。来賓や出演者等を含めると、参加者は600人を超えることとなります。ありがとうございます。

(振ちゃん) すごいよね。

(教ちゃん) そうね。この勢いで教育振興運動を益々盛り上げていきたいわね。

(振ちゃん) より良い運動にしていくために、足元をしっかりと見つめ、直すべきところを改善していく平成25年度にしていきたいよね。

(教ちゃん) 自己評価をすると厳しい評価になるし、より良いものにするためには出来ていないところに目がいてしまうのだけど、県内どの市町村や地区でも様々な工夫をした活動をしていると思うの。

(振ちゃん) そうだよね。

(教ちゃん) ただ、「何のために、何に取り組み、どうなったのか」という運動の意義や良さが地域の皆さんに伝わっていなかったり、地域に住む住民は全員が運動の当事者であるという意識がなかったりしているだけなんじゃないかしら。

(振ちゃん) そうだよね。運動としての取り組んでいる活動に問題があるのではなくて、取り組んでいる活動を地域の皆さんにどう浸透させるか、意識させるか・・・というところだよね。

(教ちゃん) そう。集約県大会や今の教育振興運動の取組が県政番組「いわて希望の一步」で紹介されるように、市町村や地域における集約大会や集約会議の様子や今年の成果を地域の皆さんに伝えて、運動の理解者を増やす機会としていけたらいいわね。

(振ちゃん) 5者の“子ども・家庭・学校・地域・行政”って、結局、地域住民全員だってことをわかってもらわないとね。

(教ちゃん) そうなの。関係ない人はひとりもないのよ。

(振ちゃん) だから、教育振興運動は“地域の人を育て、地域をつくる視点”を持った運動・・・なんだね。

(教ちゃん) 子どもの教育環境を整える運動だけど、実は取り組むことで大人（親・住民）の意識向上や地域づくりを図る成人教育なのよ。

(振ちゃん) 成人？子どものため・・・じゃないんだ。

(教ちゃん) そうよお～。わ・た・し・みたいに・・・ウフッ！

3【編集後記】あつしのひとりごと

クリスマス・イブの日、新聞の投稿欄にあったあるお母さんの投稿を読んで、心が温かくなりました。内容は、次のとおりです。

小学4年の次女は、たまにギュッと抱きついてくる。学校で色々と頑張ってきたんだと察して、次女の気が済むまでじっとしている。すると「ああ、落ち着いた」と言って、すっと離れてく。

高校3年の長男が小学1年の時、私は仕事を始めた。最初はおとなしく家で留守番をしていたが、しばらくするとわがままを言うようになった。長男からのSOSだと察して、黙ってギュッと抱きしめた。すると、「ありがとう。もう大丈夫だから」と言って、笑顔になった。その後、私を困らせるようなことはなくなった。

私は抱擁によって、3人の子育てを乗り切ってきたように思う。言葉はなくても、気持ちが伝わるのだ。子育てをする上で、とっておきのコツだ。

(47歳・母親)

鳥取県琴浦町では、子育ての合言葉「10秒の愛」という取組をおこなっています。「10秒の愛」とは、忙しい毎日の中で、10秒だけでも子どもと真剣に向き合い、触れ合いの時を持つという取り組みです。

例えば、風呂で一緒に話を聞いたり、毎日抱きしめたり、寝る前に一緒に絵本を読んだり、朝、家を出るときに玄関から見送ったり、宿題を一緒に考えたり。日々の子育てで「大切に思っている、応援している」等、大人から子どもへの温かいメッセージを伝え続けることで、家族の絆を育むことを目指しています。

子育てをできる期間というのは、人生の中のほんの少しの期間です。子育ては常に初体験の連続なので大変なことも多いのですが、それ以上に喜びや得るものが多く、親として共に成長する期間だと思えます。

子どもと一緒にいられる時間を楽しんでほしい・・・。
子育てがあと3か月で終わってしまう私は、切にそう思います。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

感想・意見・要望はこちら。⇒ 21kyoushin@gmail.com

⇒ 第85号は、1月22日(火)配信です。

★バックナンバー(第1～83号)はこちら。

⇒ http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/merumaga_backnumber.html

★全県共通課題(家庭学習と読書推進)の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/zenkenjirei.html>

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/shoukaijirei.html>

～～～配信元～～～

*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士(さとう あつし)

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう!」という雰囲気あなたから作りだしてください。

～～～